



洪 潤 植

研究の目的

- ①弁韓から加耶への転換と交渉圏の移動
- ②金官加耶の衰退と対倭関係の変化

むすび



3世紀後半から5世紀初めまでの、鉄素材の板状鉄斧及び鉄鋌の変化と副葬の状況、倭系遺物、金官加耶と倭でみられる共通物品の性格及び分布の変化を検討した結果、金官加耶と倭の間には極めて密接な関係が維持され、交渉の対象地と主体が九州地域から近畿地域の大和政権に交替したことが明らかになった。対倭交渉の中心が九州から近畿へとに移動するに伴い、加耶定住の倭人が加耶社会に包摂され、列島社会は武具と威信財などの新たな先進文物を受容するなど、金官加耶と大和政権間の交渉関係が強化され、4世紀後半にはこの関係が最高潮に達した。

しかし、高句麗の南征以後、金官加耶の衰退により加耶と倭の関係も変質し、阿羅加耶を中心とする西部慶南地域に移行していった。このような対倭関係の変化は、前期加耶から後期加耶への移行期でありながら、加耶勢力の再編過程とも連繋しており、さらに日本列島内での勢力再編とも軌を一つにするなど、加耶の政治社会的変動は日本列島社会の変化の一つの契機となったと思われる。